

特別展示「火星－ウソカラデタマコト」展

記者発表のご案内

開催要旨

平素は東京大学総合研究博物館の活動に対し、格別なるご高配を賜り、衷心より御礼申し上げます。

さて、このたび、わたくしども総合研究博物館では、特別展示「火星－ウソカラデタマコト」展〔7月24日（土）～10月30日（土）〕を開催する運びとなりました。この展示は、人類にとって最も興味をそられる地球外の星、火星を対象としております。これまでの火星探査の成果だけでなく、現在JAXAを中心に検討が進む日本の火星探査計画の素案と、この計画をめぐる熱い議論の現場をそのまま展示することに致しました。そのため展示企画には、現在日本で火星の研究を行っているほとんどの（JAXAや大学を中心に100人以上の）研究者が加わっています。展示会場では、提案されている計画への人気投票や、素朴な感想・コメントを集めるコーナーがあり、来館者の意見は研究者と有機的につながります。つまり、来館者の意見で探査計画が左右されるかも知れず、来館者は火星探査計画を立案するまさにその現場に立ち会うことになるのです。

主要展示物としては、20世紀最大の発見と言われた火星生命の痕跡が残るとされる隕石や、火星から来た隕石に手で触れられる（火星に触れる）コーナー、探査で得られた高精細かつ膨大な量の火星の画像、実際のデータに基づいて作られた火星上空を飛行するフルハイビジョン3次元映像（火星を飛べる）、研究者が創意工夫して作り上げている最新鋭の探査機器（たとえば声ですら反応する超高感度地震計や、離れた場所の岩石も瞬時に化学分析できる装置など）、火星に存在する可能性が指摘されている極限環境生物などが挙げられます。

また、同時に2階展示ホールでは、併設展示「昆虫標本の世界－採取から保全まで」展を開催いたします。つきましては、以下のとおり記者発表を行います。詳しくは <http://www.um.u-tokyo.ac.jp/> をご覧下さい。一般公開に先立ち、記者会見終了後、午後4時より内覧会を開催いたしますので、併せてご案内申し上げます。

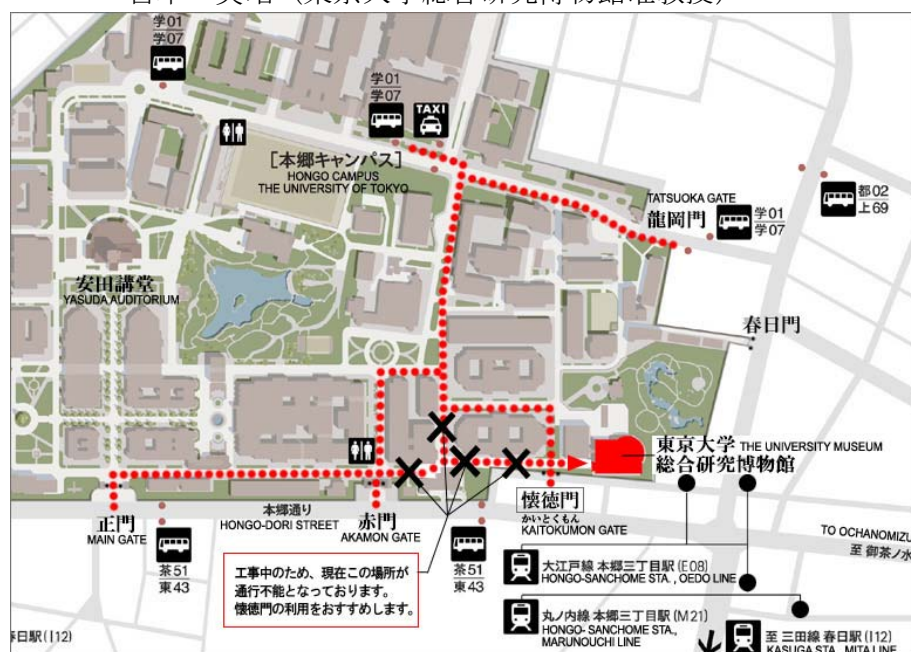
〔記者発表〕

日時： 2010年7月23日（金）午後2時より

場所： 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学総合研究博物館7F「ミューズホール」

出席者： 西野 嘉章（東京大学総合研究博物館長）

宮本 英昭（東京大学総合研究博物館准教授）



- 地下鉄大江戸線「本郷三丁目」駅（4番出口）より徒歩3分
- 地下鉄丸の内線「本郷三丁目」駅より徒歩6分

※なお、記事などにされる場合、お問合せ先電話番号はハローダイヤル（03-5777-8600）のみご掲載下さい。

2010年7月吉日
東京大学総合研究博物館